

日本共産党浦和区後援会ニュース
2016年4月号 58
浦和区北浦和3-14-16
TEL/FAX 048-833-4515
***** (部内資料) *****

うらわ宿

7月参院選に向けて野党共闘が
大きく前進した3月、浦和区でも
3月12日(土)北浦和カル
タスホールで、共産党浦
和区後援会と区委員会の共
催による「浦和区春のつど
い」が130名以上の参加
者で盛大に行われました。

梅村さえこ衆議院議員は「オ
ール埼玉総行動は全国の総行動のさ

たつどいは、早々から和やかな雰
囲気になりました。



梅村議員の応援演説は、
戦争法廃止、立憲主義の回
復、安倍政権打倒のための
選挙協力に向けた野党五党
の合意がいかにかに理にかな
ったものであるかがわかりや
すく、気迫に満ちて語られ
ました。また自公を少数に
追い込むために全国で続々と
統一候補が実現している

伊藤岳候補が力強く決意 表明

つどい
は、伊藤
岳参院埼
玉県選挙
区候補の
勝利のため

参院選勝利！伊藤岳さんを国会へ！

「浦和区春のつどい」盛大に行われる

け付けた梅村さえこ衆議院議員をは
じめ、各界からたくさんのスピー
チが続き文字通り参院選必勝を誓
うスタートの集いとなりました。
伊藤岳候補が自信に満ちた声で
次のように決意表明を行いました。
「憲法と民主主義を守り、いのち
とくらしを守り、あなたを守りま
す。私への一票は自公勢力を少数
派にし、戦争法を廃止し立憲主義
を回復することに繋がります。こ
の仕事皆さんと一緒にやりましょ
う。どうか押し上げて下さい」

きがけ、女性によるレッドアクショ
ンも埼玉から始まった。埼玉は全
国から注目されている選挙区。な
んとしても伊藤岳さんを国会議員
にしていきたい」と訴えました。
G9サポーターズの矢野代表、
山崎さん、N郎さん、オール埼
玉総行動の野田副代表、埼玉土建
浦和南支部の水野さん、新婦人浦
和区女性有志たんぼ後援会の関
原さんから応援スピーチや応援歌、
応援コールがありました。

こと、そし
て複数区
の埼玉でも伊
藤岳さんを
国会に送り
込むことの重要
性が説かれ理解が広がりました。
また、土建をはじめとする各界
の激励、とりわけ勝手連のG9サ
ポのみなさんは新鮮な勇気と感動
で会場を包み込みました。N郎さ
んの力強い応援歌に励まされ、さ
らに、山崎さんの迫力満点の応援
にも圧倒されました。

このつどいに参加した方から次
のような感想が寄せられました。

「浦和区春のつどい」に参加して

3月12日の「浦和区春のつど
い」は従来の共産党らしくない催
しで大成功だったと思います。楽
しく元気が出て、しかも確信が持
てた集会でした。藤田さん夫妻の
フルートとエレクトーンで始まっ

吉良よしこ参院議員のキラサポ
のような活躍を予感させる場面で、
岳さんに対する支持の広がりが感
じられました。前回の獲得票35
万に25万票をプラスすることは
至難の業とも思えますが、広範な
市民の共感と支援が広がれば、決
して達成できない目標ではないは
ずです。
最後に、わが浦和区在住の伊藤
岳さんをぜひとも7月の参院選で
勝利させ、国会に送るためになお
一層の活動強化が求められている
と決意させられた集会でした。
(岸町・井上美征)

* 耳より情報 *

- 後援会 駅頭宣伝 7時~8時
- 15日(金)北浦和駅東口
 - 20日(水)浦和駅西口
 - 22日(金)北浦和駅東口
 - 25日(月)浦和駅東口
- オール浦和区の会(準備会)
署名・宣伝活動
- 4月19日(火)16時 浦和駅東口
 - 5月7日(土)14時 浦和駅東口
- 5.3 憲法集会
5月3日(火・祝)13時
東京都有明防災公園
- 5.29 オール埼玉総行動
5月29日(日)10時半
北浦和公園

署名集めに参加して

今回、地区の責任者の方から「2,000万人署名」活動をお願いされた一読者です。私は今まで長い間「しんぶん赤旗日曜版」を愛読するだけで、何かで立ち上がるという行動をとることのない隠れキリシタンのような存在でしたが、今回は遅ればせながら立ちあげました。活動してみても強感を感じたのは、相手に良く理解してもらって署名していただくということがいかに大変であるかということでした。特に私は介護の仕事なので、「高齢者」や「障がい者」の方が自立に向かって努力するのを目標にお手伝いをしていきますが、なかなか理解していただくところまでいきません。それでも常に誠実に仕事をしています。まわりの多くの方々や知人、友人は声かけすると自然に喜んで署名して下さいました。今後とも真摯に仕事をしながら、この署名活動を続けたいと思います。(元町・S・O)



うらわ宿文芸

川柳

口利きだ 不倫横領 後絶たず
「日本死ぬね」 ママたち炎上 安倍ヒトリ
スポーツ界 クスリ賭博と 縁を切れ！
賃上げは 総理がお願い する春闘
(東口・さぶ老)

白々しい 言葉の羅列 安倍総理
失言者 続々登場 自民党
若いママ 政府動かす ものすこさ
(岸町・だん吉)

うらわだいに

軽減税率
財布の、中身が軽減”するだけです
——国民

安倍首相どの
(岸町・佐久間純)

憲法守れば思考停止
あなたは明治憲法で思考停止では？
——国民

安倍首相殿

狂歌
金権党 叩けば埃 立つ身等の
言い訳帳は 使い回しや

クイズ

問い——次の言葉に共通するのは何？
羊羹 不倫 歯舞 シーベルト
停波 横領 ゼロ金利 暴走
——答えは、参議院選挙で発表
(東口・さぶ老)

編集後記

二月、三月が慌ただしく逃げ去り、いよいよ四月。桜の満開と共に新しい年度が始まった。私事だが縁あって四月末に神奈川の二宮町に引っ越すことになった。その二宮町が、最近観た有原誠治監督の映画「一步でも二歩でも」の映像の「コマ」に登場したのでびっくりした。この映画は、東京から広島まで九日間、一千km、約二三四万歩を刻む二〇一五年の原水爆禁止国民平和大行進を密着撮影したドキュメンタリー映画だ。平和行進の隊列が二宮駅南口に建つ児童文学作家・高木敏子の「ガラスのうさぎ像」から町役場へ到着し、出迎えたのは二宮町長と町議会議員。村田邦子町長は、「へいわはいいね」の絵本を朗読し、「ガラスのうさぎ像」を紹介し、二宮町が平和と友情の集いなどを一貫して取り組んできたことを紹介している。添田議長は「平和を守るために行動をしている皆さんに敬意を表したい。」と労いの言葉をかける。二百人を超える参加者と一緒になって映画「ガラスのうさぎ」のテーマソングを合唱するという豊かで文化的で心温かい歓迎式となっている。沿道のいくつもの他の自治体の首長・議長も自ら平和行進の隊列を迎えている映像に感動した。五七年間続いているこの平和大行進は、今年も五月六日を皮切りにそれぞれのコースでスタートする。私も、平和への思いを発信するために、新しい地で、新しい仲間と「一步でも二歩でも」歩こうと思つ。(きよた)



うらわ宿の創刊から編集を担当していただいた石川清隆さん、神奈川二宮町に転居予定とのこと。長い間ありがとうございました。

シリーズ
野党は
共闘

山崎医師 安倍政治や 参院選を診る



編集部では3月26日、浦和区で開業されている山崎利彦医師に緊急インタビューをお願いしました。この日は北浦和で「安保法制の廃止と立憲主義・民主主義の回復を求めて」というシンポジウムが行われ、山崎医師も呼びかけ人として出席されました。山崎医師は、昨年から伊藤岳予定候補者のサポーターにもなっていていただいています。

- お医者さんでは昨年の肥田舜太郎先生以来のインタビューです。共産党や伊藤岳予定候補にはどのような印象をお持ちでしょうか。

私は自民党から共産党までどこの政党の方であろうとお話ができる方とは幅広くおつきあいさせていただいています。伊藤岳さんとは、それこそ最初に国政選挙に出た頃からのおつきあいで、今回サポーターとして支援しています。共産党はぶれずに筋を通している政党として良い印象を持っています。

- 早速ですが現在の安倍首相や自公政権をどう診ていますか。

本日のシンポジウムでも話題になりましたが、安倍政権により立憲主義や民主主義が壊されようとしているとの認識があります。私はそもそも日本の政治権力がどう作られてきたのかということを考えるのですが、140年前の明治維新からおかしかったと思っています。長州を中心にバランスを欠いたでたらめなことをやっています。自分達がトップに立つのは具合が悪いというので、天皇を利用して、天皇の命令なのだから言うことを聞けと。そういうやり方で自分達を権威づけそれまでの日本の歴史や文化をひっくり返し

てしまったと思っています。実は今、それと同じことが起きているのではないかと考えています。

- 各政党についてはどのように診ていますか。

各政党の政治的な立ち位置があまりにもぶれていると思っています。欧米では公務員を減らせとか、緊縮財政にせよとか、小さな政府を主張しているのは保守層で、これに對抗していわゆるY世代といわれる1980年以降生まれの若い世代が、デモなどに立ちあがっていますが、日本では逆に比較的リベラルと言われる政党がこうした主張をしています。経済政策でも日本は保守とリベラルがあべこべの印象があります。おそらく自民党が極右になって民主党が自民党のようになっているというずれが生じていますね。その点ずっとぶれずにやっているのは共産党です。唯一筋道を通しています。ただ国民にとってそういう政党が好きか嫌いかという問題はありますけどね。

- さて、今回の参院選についてはどうしたらいいでしょうか。

ヒトラーは政権を取った時でも過半数には届いていなかったのですが、他の政党もいろいろあったのに、あっという間にナチス独裁体制になってしまいました。政党が分散している時、独裁者が出やすいという共通性があるといえます。私達はこの歴史に学ぶ必要があります。独裁者を止めるためには、小異を捨て大同につかねばなりません。自民党は最近、国共合作ならぬ民共合作といって、野党を批判しはじめましたが、野党は堂々と開き直って民共合作するのだと言えいいんです。独裁の危

険性を訴え、大同につく大義を訴えればいいと思います。それが、今度の参院選だと思います。

ただ一人区の場合は、共闘しやすいでしょうけれども、ここ埼玉のような複数区の場合は工夫が必要です。大野さんと伊藤さんを当選させるために、この二人をくっつけるのはわれわれ市民だと思っています。安全保障を重視している方は大野さんに投票すればいいし、福祉を重視する人は伊藤さんに投票すればいいんです。参院選の先には衆院選があるということを見据えて共闘体制を目指していきたいと思っています。

- 医療分野で取り組まれている問題点はどんなところにありますか。

私は現在埼玉県保険医協会の常任理事及び全国保険医団体連合会の理事をしていますが、医師会が名目上は学術団体であるのに対して、保険医協会は保険医の生活と権利を守ること、国民保険の制度を守ることが目的で作られています。診療報酬は下げられ、患者さんの負担も増えいいことはありません。歯科医師の数は多く経営上も問題になっています。これらは、国の政策と関係しています。治安、国防や、社会福祉、教育は国がやらないといけないのですが、最近では、国防中心で、福祉や教育が軽視されています。安全政策には当然社会福祉、教育も含まれます。国防中心になっているのは大きな問題です。

- 本日はありがとうございました。今後とも世相の診断と効果的な治療方法について、是非お話しできたく思います。

尚、山崎医師のインタビューの全体は後援会のホームページで後日紹介させていただきますのでこちらもご覧ください。また4月3日付の「しんぶん赤旗日曜版」では伊藤岳サポーターズの皆さんとともに山崎医師の談話が紹介されていますので、こちらもご覧ください。

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求めるオール浦和区の会（準備会）が主催した「3・26みんなて語り合いませんか、私たちのいのちとくらし=安保法制の廃止と立憲主義・民主主義の回復を求めて」が北浦和カルタスホールで、多くの浦和区後援会の方も交え90名を超える参加で開催されました。伊藤岳予定候補も参加し出席者の方々と談笑しました。以下その模様を紹介します。

緊急事態条項は立憲主義の停止

伊須弁護士が問題提起として、「立憲主義と緊急

事態条項問題について」と題してその論点の報告を行いました。立憲主義を停止し更に戦争体制を強化する仕組み作りである、なぜ現憲法は緊急事態条項の規定を持っていないのか、その意義を現憲法の歴史から報告。国民の基本的な人権を制約できる危険を自民党憲法改正草案から指摘し、立憲主義の重要性をきちんと考え、どうしたらこの「お試し改憲」の危険な動きを止めることができるのか一緒に考えていきたいと問題提起を行いました。

黙ってはいられない

続いて4人のパネラーの方（VIP埼玉、高校生の丸山貴大さん、ママの会埼玉の佐藤真由果さん、オール埼玉副代表の野田静枝さん、前埼玉弁護士会会長の大倉浩さん）

がそれぞれの取り組みや行動、思いを発言しました。

丸山さんは、自ら学習した安保法制の中身や、自民党憲法改正草案Q&Aなどについて平和国家から軍事国家へなりつつあることを発言。

佐藤さんは、6歳の子どもの育てているママさん。特別秘密保護法成立や安保関連法案の反対運動に接し、地元の自・公議員へ嘆願書や要望書を出し回答を求めた。国会前へ何度も抗議行動に出かけた。これらの行動を通じ、子ども

いのちとくらしを守るため、アベ政治を変えよう！

3・26みんなて語り合いませんかシンポジウム



基調報告をする伊須弁護士（3/26・カルタスホール）

を守るためには自分が立ち上がらなければならないと気づいた。と、ママの会結成の経緯、活動について発言。

野田さんは、人と動物の平和な共生生活をめざすNPOアニマルサポートメイトの活動に関わり、戦争時代に動物がどのように扱われたかを語り、動物が平和に暮らせない社会は人間も平和に暮らせないと指摘、また、オール埼玉総行動の副代表を務め、自画自賛安

倍晋三内閣による立憲主義の崩壊と子どもの貧困に言及し、いのちとくらしを守るため国民の総意で安倍内閣の息の根を止めたいと発言。大倉さんは、安保法制反対運動の学習会、講演会等埼玉弁護士会としての活動について発言。

声を上げ政治をかえよう

その後の「みんなて語り合おう」では、延べ15人の方から発言と活発な意見交流が行われました。教育・教科書問題、戦争体験者か

らの「戦争は二度と繰り返してはいけない」、自作のプラカードをたくさん展示しての思い、

無関心層への働きかけは？民主主義イコール多数決という思い込みをしてきたのでは？民主主義についての定義 憲法、法律上の規定はあるのかは、弁護士さんを変えての議論に。前回の埼玉の選挙では、約50%の人が選挙

に行っていない、この人達に投票に行ってもらおう街頭での呼びかけが重要ではないか？それも大切ですが、日々の生活の中で、想像力を働かせて、関心を持ってもらう語りかけが大切では？など、白熱した意見交流となりました。

最後に、呼びかけ人の山崎利彦氏のリードで全員が起立して「みんなて選挙へ行こう！投票をしよう！」等のコールで会場を響かせ、「命と暮らしを守る」ために政治を変えようの気持ちを共有し合いました。

